の みが わ

２００５年１１月　１日　発　行

通　算　　第３９号

連絡先　〒146-0085　大田区久が原４－19－24
発　行　　大坪 庄吾 方　呑 川 の 会
呑川の会　e-mail　：s.ootubo@nifty.com
呑川の会　HP：http://homepage3.nifty.com/nomi/
高橋会員 HP：http://homepage2.nifty.com/aoiyume/

二ヶ領用水ウォークのお知らせ

大　坪　庄　吾

二ヶ領用水から宿河原取水堰へ　＜呑川の会　秋のウォーキング＞

水路を歩き、秋の一日を楽しむ会を企画しました。二ヶ領用水は江戸初期の 1597 年(慶長 2 年)から 1611 年(慶長 16 年)までかけ、多摩川右岸にそって開削された農業用水路です。

家康の江戸入府から７年後、川崎宿の代官となった小泉次大夫の指導で多摩川の中之島と宿河原から取水し、稲毛領と川崎領の二ヶ領の水田を潤しました。同じ時に着工されたのが左岸の六郷用水です。多摩川下流域(稲毛領、川崎領、世田谷領、六郷領)の農村はこの開発で中世より安定し、水路は何度かの改修をへて昭和まで水田用水として使われてきました。早くから水路を埋めてしまった六郷用水の下流に比べ、二ヶ領用水はごく一部が今も用水として使われています。流路は親水護岸化され、近代化された取水堰から豊かな水を取り入れて流れています。

溝の口から宿河原取水堰、そして「二ヶ領せせらぎ館」の見学もいれて多摩川と水とのかかわりを大坪会長の案内で学びたいと思います。

＊日 時　11 月 19 日(土)　午前 10 時 ～ 午後３時頃まで
＊集 合　南武線　武蔵溝ノ口駅北側に出て　時計台付近広場
（田園都市線溝の口駅からは南武線への連絡路で北側広場へ出られます）
＊昼食弁当は必要ですが、途中のコンビニで購入できます。　小雨程度なら実施します。微妙な場合は午前 7 時半～8 時の間に福井（3729－8827）または大坪（3751－6971）まで電話で問い合わせてください。メール利用者には 7 時半に福井からメールで連絡します。
＊会 費　500 円
＊行程及び主な見学先　（ 全行程は約７㎞ ）
溝の口駅 ～ 大石橋 (ここから二ヶ領用水路の水路歩き) ～ 久地円筒分水樋(国登録文化財第一号の近代分水施設) ～ 鷹匠橋 ～ 中之島水路と宿河原水路との合流点 ～ 川崎市緑化センター公園（見学 と 昼食） ～ 宿河原橋 ～ 新船島橋 ～ 宿河原用水取水口 ～ 宿河原取水堰 ～ 二ヶ領せせらぎ館見学 ～ 川崎水辺の楽校 ～ 登戸の渡し跡 ～ 登戸駅　解散

呑川の会会員でなくても参加できます。会員以外で参加希望の方は 11 月 15 日まで大坪または　福井まで申し込んでください。

ユスリカ事情

― 目黒区役所、森ヶ崎水再生センターの話を通して―

福　井　　甫

先日、目黒区のユスリカ状況を知りたいと目黒区の生活衛生課に話を伺った。呑川の工大橋付近は両岸とも目黒区であり、目黒区としては呑川と目黒川のユスリカを管理することになる。

そしてまず第一に担当者の感じでは、呑川の方がユスリカが多いとのこと。そのためか目黒川の苦情の件数は平成16年度は4件、平成14・15年度はいずれも5件（大田区は16年度11件、14・15年度はそれぞれ1件・6件）で通行者からのものが多い。目黒川でユスリカが多いのは田園都市線池尻大橋から東横線中目黒の間で、特に上流部に多いようだ。また大田区・目黒区の担当者ともユスリカの卵塊は発見できないとのこと。目黒区の認識ではユスリカの卵は水辺に産み付けられるのは間違いないが、必ずしも藻に産み付けられているとは考えていない。

目黒区のユスリカ除去対策として、以前は川側道の植栽に薬剤散布をしていたが、現在は止め、河床清掃を主としている。ただ河床が呑川のように一面のコンクリート張りでなく、波消しブロックを並べているため、機械が入らず、人手によっている。そのほか電撃殺虫器も設置している。

一方、都・下水道局も水再生センターでのユスリカの抑制策については検討課題にはなっており、森ヶ崎水再生センターを訪れた。その時の話によると同センターの西施設の沈殿地で発生するユスリカに対し、周囲に噴霧器 25 台を配置し、発生時に薬剤を噴霧している。同じ薬剤を噴霧しつづけると、耐性種が生まれ効果がなくなるので、ときどき薬剤は切り替えるそうである。東施設（コアジサシが営巣している施設）の沈殿地は住宅地から離れているので噴霧はしていない。そのため西施設では歩行中、ユスリカを感じないが、東施設では大量発生時はやはり顔に強くあたるそうだ。噴霧器の効果だろうか、住民からの苦情も今はないそうである。以前はユスリカについての協議の場だった周辺自治会等との協議会も、今はもっと広い情報交換の場に変わったとのこと。

（　ユスリカ　）

（ユスリカ群　　於：道々橋）

ユスリカはいわゆる益虫として河川の浄化に役立ってはいるが、一方住民・歩行者に与える不快感をなくす努力が必要なこともいうまでもない。そして、なぜ呑川・目黒川とも上流域に多いのか、藻とユスリカとの関係等わからないことも多い。そのためにはまず大田区・目黒区等ユスリカの発生自治体と、都の下水道局・環境局等とのユスリカについての情報交換会の開催、あるいはユスリカの発生のメカニズムについてしっかり調査することなどが先かもしれない。

区民大学環境セミナー「大田の水辺」に参加して

福　井　　甫

区報で紹介され、ご存知の方も多いと思いますが、社会教育課主催の「大田の水辺」が次の内容で開かれました。

９月２２日（木）	19～21 時	東海道から水辺へ
９月２９日（木）	〃	呑川でがんばる生きものたち
１０月　６日（木）	〃	大田区の橋　～失われた著名橋～
１０月１３日（木）	〃	大田区の河川と水利施設
１０月１５日（土）	13～16 時	見学会　　六郷水門・排水機場など
１０月２０日（木）	19～21 時	海苔のふるさと

６回の講座に「呑川の生きもの」のテーマがなぜ選ばれたかはわかりませんが、選ばれたことは大変よかったと思います。区でも、区の真ん中を貫流する呑川で生きものが豊かになることを願ってのことでしょうか。呑川の生きものについては高橋さんと私（福井）がパソコンのプロジェクターを使って現状と課題、それに対する呑川の会の取り組みを話しました。

その他　会員でもあり、産業考古学会会員の斉藤和美さんが、９月 22 日の分と 10 月 20 日の分を担当され、２２日は大森の海岸地区の江戸時代からの変遷、10 月 20 日は大森の海苔業について、豊富な往時の写真・絵を使い、わかりやすく説明され、楽しい講座でした。

また講座を契機に２名の方が会に加入してくださり、その意味でもよかったと思っています。

新入会員の紹介

次の方が「呑川の会」に入会されました。

豊田　陽子さん　　上池台在住
田中　美恵子さん　　西蒲田在住

アンケートへの協力のお願い

2002 年に呑川とのかかわり方、呑川の未来像、会の活動等につきアンケートを実施しましたが、今回は、本年度の会の重点活動事項、その他に関し、会員のみなさんのご意見を伺いたいと思います。お手数ですが、ご協力お願いいたします。　回答用紙　別添のとおり。

期　限　：　11 月 20 日（日）
送付先　：　福井　あて　　同封封筒　のとおり

呑川沿い樹木調査に関して

本年度の活動計画にある呑川沿いの樹木調査は８月から９月にかけて会員の可児さんの全面的な協力で行い、その第一次のまとめ（試作）を添付資料①のとおり作成しました。本来川の流れに沿ったマップの形で表現できればよいのですが、紙幅の都合もあり橋間分布の形でとりあえずまとめました。どのような形にしろ、まず呑川沿いの樹木マップができれば、散歩が楽しくなるでしょうし、呑川への親しみももっと増すのではと思います。

また樹木マップのまとめ方としてパソコンのカラー印刷機能を使えば、いろいろな方法が考えられます。

そこで会員のみなさんのご協力により、より親しみやすいマップを作成するため、次のアンケ

ートを実施することにしましたので、ご協力ください。

１．樹木マップに記載洩れの樹木を記入ください。おおむね樹高 2 メートル以上とする。
２．貴方が好きな木、見てほしい木、気になる木等を記入ください。
　　人気ベスト１０ないし、２０とその写真を加えたいと思います。
３．貴方が希望するまとめ方、楽しいだろうと考えられるまとめ方を記入ください。
４．カラー印刷が増えるとコストが高くなりますが、助成してくれそうなところをご存知ありませんか。

改修区間の改修プランに関して

昨年来、新幹線下流域を中心とする呑川の未改修区間につき、現地ウォークはじめ検討を重ねてきました。一方都建設局河川部は現在河川法の改正に伴い、河川整備計画の見直し作業を進めており、すでに内川については整備計画が作成され、都河川部のホームページに掲載されていました。呑川のついては現在作成中で来年度にもホームページに掲載され、それに対する意見を募集する予定だそうです。そこで呑川の会としても改修プランをまとめたく、これまでにまとめた改修プラン案（添付資料②）に対するご意見を伺いたいと思いますので、反対意見を含めてお寄せください。
5．未改修区間について
６．既改修区間について

呑川の会の行事に関し

７．呑川の会として実施したら、楽しいと考えられるプラン･イベント等をお書きください。
　アイデアだけでご自身は参加できないものでも大歓迎です。

呑川の会の活動時間について

８．呑川の会の活動は現在　定例会は就業されている方も考慮し、偶数月に土曜の午後と金曜の夜を交互に、またウォーキング等の行事は土曜、日曜の昼間に実施していますが、なるべく多くの方が参加できるように設定したく貴方様の参加しやすい曜日、時間帯をお書きください。平日の昼間も含めて。

メールアドレスの連絡

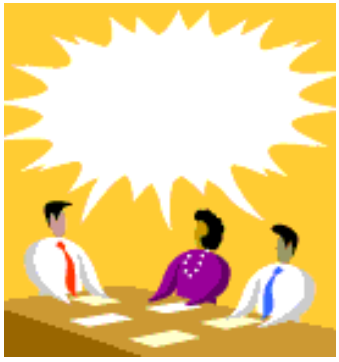
９．現在　事務局で把握しているメールご利用者にはときどき各種情報をメールでお知らせをしていますが、受信されていなくてメールを利用されている方はメールアドレスをお知らせください。

その他

10．会員名簿を送付したいと思いますが、個人情報保護法の関係もあり会員名簿へ掲載を希望しない項目があればご記入ください。
11．その他、呑川そのもの、あるいは会の運営等に関し、ご意見をお寄せください。

次の定例会の案内

＊開催日時　12 月 3 日 (土)　14 時～17 時予定
＊場　　所　蒲田小学校　会議室
＊議　　題　① アンケート結果報告
　　② 樹木調査のまとめ方
　　③ 次号会ニュース記事について
　　④ その他
＊定例会終了後　懇親会を実施します。



呑 川 生 物 調 査

高　橋　光　夫

例年行われている大田区環境保全課との「合同生物調査」が、2005 年 10 月 5 日（水）行われた。呑川の会で参加したのは福井さんと私。第２京浜国道近くの「北の橋」を降りて、さっそくタモ網で探る。

さっぱり魚影が見えない。春の調査では、たくさんの魚が走るのが見え、そのすばしこさに追いかけても追いかけても捕まらなかったのとは大違いだ。結局少し水深のあるところに魚がいることが判り、投網を打つ。その中で確認できたのは、まずボラ・マルタ・ハゼ・・・いかにも東京湾につながる呑川らしい。そしてドジョウ・・・川独特の魚もなんとか見つかりホッとする。

生き物調査が終わる頃、福井さんが「アキアカネ」と思われるヤゴを見つけた。これも淡水域ならではである。とても小さい不明の魚も見つかったが、これはクロメダカとヒメダカらしい。とすれば最近の調査では見つかっていないから、呑川としてはうれしい。どこから入ってきたのだろう。

尚、２年前までの大田区の調査の結果は、大田区の下記の HP で見られる。
http://www.city.ota.tokyo.jp/ota/eco/houkokusyo/pdf/03sakana_tori.pdf

マルタ

ボラ

ドジョウ

アキアカネのヤゴ

-２００５　神田川サミットに参加して

菱　沼　公　平

9月25日（日）、台風が関東地方接近という中で、「第14回神田川サミット2005　at 接点～川と道と文化の交わる所～」が開催されました。

第１部は神田川ウォーキングとして行われました。東京都水道歴史館に集合後、同館の見学からスタートし、呑川の会からは、白石さん、工藤さんと私が参加しました。そこには江戸幕府誕生と同時に進められた、神田川の流れを利用した神田上水に始まる江戸の水道の歴史が　展示されていました。館外には神田上水の石樋（万年樋遺構）が復元展示されていました。

その後2班に分かれて、神田川ネットワークの代表がそれぞれの案内人となり神田川に向かいました。川沿いに歩き、上水掛樋跡碑、神田川沿岸緑地（未完成のため、普段は施錠されている＜左写真＞）を見学し、水道橋分水路を見て水道橋に至りました。市兵衛河岸跡には防災船着場が設けられていました。後楽ポンプ所はビルの地下にあり、未処理の下水を利用した「地域冷暖房システム」が設置されており、未処理の下水を利用したシステムは日本初で、クリーンエネルギーとして注目されているが、問題点もまだ多くなかなか広まらないというのが実態だそうです。

ウォークの最後は小石川後楽園でした。ここでは公園の公認ガイドがつき、説明を受けながら見学しました。神田川の水を引き入れ、池、滝などを配した広大な庭園になりました。台風、関東地方に接近中にもかかわらず、とうとう傘を差さないままウォークは終了しました。

第2部は、法政大学の26階スカイホールで、フォーラム「水と陸の交差点」が開かれました。ここには前記の3名に加えて福井さんも参加しました。基調報告の後、パネルディスカッションが行われました。水と陸の交差点「飯田橋」を取り上げ現状の分析から、未来に向けた人間性豊かな空間に変える努力が行われています。現状は地上には道路・川・橋・鉄路・建物があり、地下には地下鉄、空間には歩道橋・高速道路が入り乱れています。

また、そこは単に構造物が複雑に絡み合っているだけでなく、行政も千代田区・文京区・新宿区の交差点でもあり、新たな展開を難しくしています。人間のエゴで破壊してきた自然を、今後は人間の知恵を集めて新たな視点での人間と自然の共存を進める必要を痛感しました。

その後の交流会では、白石さんが「呑川の会」を代表して会の活動を報告しました。余談ですが、台風も去り26階からの眺望はなかなかなものでした。

呑川源流探査ウォーク

工　藤　英　明

10月22日（土）くもり時々小雨、今年度計画ウォークの一つである呑川源流探査ウォークが挙行された。家を出る時間帯である8時から9時にかけて朝のうち小雨模様であった。そのため参加者が激減かと心配されたが、総勢12名の呑川の会会員が東急大井町線等々力駅に参集した。

午前10時、リーダー白石さんの先導のもと、勇躍ウォークに出発した。まず駅前の道路を渡ると、「等々力渓谷」入り口だ。うっそうと茂った樹木で日差しは遮られ、森の中はほとんど真っ暗だ。もっとも日差しの強い春から夏にかけては、この茂みが太陽光を適度に和らげ心地よい格好の散歩・散策の場となることだろう。

配られたプリント「等々力渓谷の形成過程」によると「国分寺崖線から谷頭侵食による谷沢川と九品仏川との間で河川争奪が行われ、谷沢川が九品仏川を奪取した」とある。川は生きている。人間の世界と同様に、川も争奪戦を演じていたのだ。都23区内唯一の「渓谷」であり、更に河岸段丘や地質・湧水の観察には最適の場所であり、また古墳群もあり考古学的興味もそそられる。

今日の、本来の目的「呑川源流探査」の旅に戻ろう。・・・近くのバス停から渋谷行きのバスに乗り「深沢坂上」で下車。そこから、いわゆる「呑川緑道」に入る。

太古の昔から少なくとも昭和以前までは、呑川の水源は、

① 桜新町から深沢を経て大岡山へ至る「本流プラス深沢湧水」
② 都立大学の氷川神社付近で合流する「駒沢支流」
③ 同じく都立大学駅付近で合流する「柿の木坂支流」
④ 緑ヶ丘駅付近で合流する「九品仏支流」
⑤ 同じく洗足池からの流れで本村橋で合流する「洗足流れ」

などで、次第に水流を増し呑川として流れていた。

桜新町の水源も「湧水」であり、それぞれの支流も水源は「湧水」であった。現在、これらの「水源湧水」は、目で確認＝目認できるものは殆どない。しかし、呑川を愛する呑川の会会員は、是我非でも、これらの「湧水源流」を目で見て確認したいという願望を抱いているのだ。

「呑川緑道」から最初の立ち寄りは、深沢神社の湧水源だ。この深沢神社の正門から右奥へ進むと石作りの立派な「水源」に辿り着く。約2間四方の石柱に囲われ、岩石で作られたもので、神社の敷地より下方への回り階段を踊り場を含め十数段下りてゆくと、岩清水が少しずつ滴り落ちていた。これが湧水の水源だ。周りの景色は高い樹木に覆われ、この日の天候にも影響され、肌寒い感じだ。水源の水温は多分、夏と冬でも温度差はわずかで、真冬にはやや暖かく、真夏にはやや冷たく感じることだろう。この水は隣接する三島公園の池に流れ込んで、水生植物や水生動物の生命を育んでいるように見えた。

なお当会可児会員の先輩で、この深沢神社のすぐ近くにお住まいの谷岡さんが、江戸時代以前の北条氏支配により始まる深沢神社の歴史や、幼稚園の所が池であった事など付近の様子について、懇切丁寧に解説して下さった。数十年前の祖父の時代からの呑川の様子を、手に取るようにお話くださり、われわれは感心しきりであった。

水源に急ごう！　駒沢通りに掛かる（掛かっていた）呑川橋を過ぎ呑川親水公園へ進んだ。戦後の都市河川の変貌は、「呑川」もその典型であるが、人口増加とその流入→河川への生活排水流入→河川の汚濁・悪臭→度重なる洪水（被害）→河川の下水道化の過程を辿る。「呑川」の場合、工大橋より下流（大田区内）は、洪水対策のため、三面コンクリート化され親水性は殆どなくなった。その点、世田谷区内は幸か不幸か、呑川は完全下水化した。昭和30年代から40年代は人口流入が激しく、早急な洪水対策や汚濁・悪臭のひどい呑川の水を人目から覆い隠すことが必須だったからだ。

その後 20 数年が経過し、日本国もゆとりやなごみを求める時代風潮となった。折りしもバブル好景気が到来した。そこで、呑川緑道に再度、せせらぎを復活させたのだった。このせせらぎは、平成 6 年に、「人々が憩う集う水辺づくり」全国大会で「手作り郷土賞」を受賞した。せせらぎの幅は 2～3 メートル、水深は数センチメートルと文字どおりせせらぎに過ぎないが、水辺には水生植物が繁茂し、これの周りには、水生昆虫類も多く棲み、すばらしい水辺の環境を実現している。今日は、カモ類（マガモ、カルガモ、おしどり）が、水中にくちばしを突っ込み、お尻を空中に突き出し、ユーモラスな格好で餌を探っていた。大田区内の未改修区間でも、このような構造の親水公園の実現は無理なのだろうかと一瞬思った。このような公園をしばらく楽しんでいる内に車の騒音が、次第に激しくなってきた。国道 246 号線に到達したのだ。ここで呑川緑道も終点だ。

いよいよ、呑川源流地域だ。国道を横断して、源流 1 の桜新町駅へ歩を進めた。この辺は、地下に東急田園都市線が走り、駅からは乗降客が頻繁に吐き出されてくる。しかし、歩道は狭く、じっくりと呑川源流地点を探索もできない。怪訝な顔でわれわれを見ている様な、気にさえなってくる。幸い、おまわりさんに咎められることはなかったが・・・。その後、源流 2 の新町南公園に立ち寄り、この公園内の地区会館で昼食をとり、皆で会のことなど語り合うこともできた。

午後からは、源流 3 の大山街道の方へ向かい、途中、行き止まりの箇所を遠回りしたりしながら、多分ここが源流だろうとみんなが納得する場所も確認できた。昔からの農家が、畑でサトイモや長ネギなどを耕作していた。が、後継者難のためか、単に空地となっている場所もあった。呑川の流れがあった場所は、今でも地上物はなく、ほとんど空地となっており、道とは区別されているためかアスファルト舗装はされていない。最低限、雨水の浸透はできる感じだ。

再度、源流 1 の桜新町駅付近に戻り、世田谷区桜新町１丁目の住居表示を入れて集合記念写真を撮った。歩道が狭く撮影者は、危険を冒し、車道に出ての撮影となった。ここで一応解散とし、今日の呑川源流探査ウォークはお開きとした。

その後、希望者は、近くの「長谷川町子美術館」に立ち寄り、なつかしの漫画や高価な絵画を鑑賞した。長谷川町子は 1992 年に 72 歳で他界したが、この美術館は、お姉さんの毬子さんと一緒に住んでいた自宅跡地に 1985 年に開館したものである。昭和 40 年代から昭和 60 年代に購入した絵画を中心に展示している。一見の価値はある。帰路、桜新町駅まで通称「さざえさん通り」を通ったが、さざえさんの銅板画を配した町並みを見た。まさに、文字通り漫画「さざえさん」の世界だった。

＜編集後記＞

前回発行号（工藤英明編集人）より編集者が交替することになり、初めての編集で今号はどうなるかと心配でしたが、５人の方の原稿の提供により発行できました。また、あと２人より原稿を戴きましたが今回載せることができずに誠に申し訳ありませんでした。紙数があれば、もっと写真や地図を入れられたのですが残念です。　（白　石　琇　朗）